

ヤコブ ②

□ヤコブの信仰の手本

1. 祖父アブラハム、父イサクと同様、寄留者の立場を甘んじて受けて、忍耐し続けた。ヤコブは、ノアやヨブと同じように、「全き人」と評された。
 - 人間の「全き者」とは、全く罪を犯さない人という意味ではない。その人の心が神の方をきちんと向いているかどうか、である。
2. 長子の権利を軽蔑した兄エサウとは対照的に、ヤコブは、アブラハム契約の約束を受け継ぐという霊的富の価値を認め、それを真剣に求めた。
3. 父イサクが兄エサウの方を愛し、エサウに長子としての祝福を与えようとしたとき、母リベカは夫イサクをだましてでも、弟ヤコブに祝福を受けさせようとした。ヤコブは母の計画に乗って実行してしまった。イサクはこの事件を受けて、神のみこころに逆らっていた自分の罪に気づき、自ら進んで、あらためて、ヤコブを祝福し、嫁をリベカの実家から迎えるよう命じて、ヤコブを送り出した。ヤコブはこのあと、生涯をかけて、父をだました罪の刈り取りをすることになり（箴言 22：8、ガラ 6：7）、わざわざに耐え続けた。

(1) 母リベカの実家の当主ラバンから、だまされた。

① ラバンの2人の娘のうち、妹のラケルを嫁に求め、そのために7年間、ラバンのもとで働いた。ラバンはヤコブをだまして姉のレアを与え、妹のラケルをも妻にしたいなら、さらに7年間の勤労を要求した。

② 14年の勤労期間が明けると、報酬を伴う契約に移行した。しかし、ラバンはヤコブの取り分がなくなるように条件を変えた。この期間は6年。

(2) ヤコブは、12人の息子を得たが、息子たちから、だまされた。

① 次男シメオンと三男レビによるシェケム報復事件（創世記 34 章）

② 長子ルベンの不祥事（創 35：22）

③ 11番目の最愛の息子ヨセフ 17歳を他の兄弟たちが妬み、奴隷に売り飛ばした事件。ヤコブには、「ヨセフは野獣に殺されたらしい」と報告され、ヤコブはヨセフが死んだものと思い込んだ。ヤコブ 107歳。

4. ヨセフはエジプトの高官の家で奴隷として働いたが、後にエジプトの王に次ぐ地位に就いた。ヤコブと彼の家族は、飢饉に見舞われ、ヨセフを頼ってエジプトに避難した。エジプトに到着したとき、ヤコブは130歳、次のようにエジプトの王ファラオに語った。「私がたどってきた年月は130年です。私が生きてきた年月はわずかで、**いろいろなわざわいがあり**、私の先祖がたどった日々、生きた年月には及びません。」その後、ヤコブはエジプトで17年間過ごし、147歳で死んだ。「信仰によって、ヤコブは死ぬとき、ヨセフの子どもたちをひとりひとり祝福し、また自分の杖のかしらに寄りかかって礼拝した」（ヘブル 11：21）

□本日の内容：ヤコブは、母リベカの実家の当主ラバンから、だまされた（その一）

1. ヤコブが、母の故郷に来て最初に会ったのは、いとこのラケルであった。ヤコブは、母の実家で1カ月間、伯父のラバンから、親族として客人の待遇を受けた（創 29：1～14）
 - (1) ヤコブが旅を続け、そろそろハランの町が近いかなあ、と思いながら、ふと見ると、野に井戸があり、ちょうどそのかたわらに、3つの羊の群れが伏していた。ヤコブが羊飼いたちに「ラバンをご存じですか」と尋ねると、彼らは「よく知っています」と答えた。
 - (2) その井戸の口の上には、大きな石が置かれていた。羊の群れがみな集まったら、井戸の口から石を転がして、羊に水を飲ませ、その石を再び井戸の口の元の場所に戻すことになっていた。
 - (3) 4番目の羊の群れが遠目にこちらに向かって来るのが見えた。先に来ていた羊飼いたちは、それがラバンの羊の群れであること、羊飼いはラバンの娘ラケルであると、ヤコブに告げた。
 - (4) ラケルと羊の群れが井戸のところに到着すると、ヤコブは、すぐに井戸の口の上の石を転がし、ラケルが連れて来た羊の群れに水を飲ませた。そして、ヤコブはラケルに口づけし、声をあげて泣いた。ヤコブは、自分はラバンの妹リベカの子であることを告げた。
 - (5) ラケルは走って行って、父にそのことを告げた。ラバンはそれを聞くとすぐ、ヤコブを迎えに走って行って、彼を抱きしめて口づけした。そして彼を自分の家に連れて帰った。ヤコブはラバンに事の次第をすべて話した。・・・ラバンにとって、妹リベカが嫁いでいってから、97年が経っていた。その間のことをヤコブが知る限りをラバンに話した、ということ。
 - (6) ラバンはヤコブに「あなたは本当にわたしの骨肉だ」と言った。ヤコブはラバンのところに1カ月滞在した。
2. ヤコブは、ラバンの娘ラケルを嫁にもらう約束で、7年間ラバンに仕えた。
 - (1) ヤコブが財産を何も持たずに来ているのを見て、伯父のラバンはヤコブに自分のもとで働くように勧めた。報酬に何を求めるのか、ヤコブに尋ねると、ヤコブはラケルを妻に求め、そのために7年間ラバンに仕えることを申し出た。（創 29：15～19）
 - (2) ヤコブはラケルのために7年間ラバンに仕えた。この間の苦労については、後日、ヤコブは回顧してラバンに次のように語った。「私があなたと一緒にいた20年間、あなたの雌羊も雌やぎも流産したことはなく、また私はあなたの群れの雄羊も食べませんでした。野獣にかみ裂かれたものは、あなたのもとに持って行かずに、私が負担しました。それなのに、あなたは昼盗まれたものや夜盗まれたものにつ

いてまでも、私に責任を負わせました。私は昼は暑さに、夜は寒さに悩まされて、眠ることもできませんでした。」(創 31:38~40) しかし、ヤコブはラケルを愛していたので、この7年間はほんの数日のように思われた。(創 29:20)

3. 7年間仕えて、ヤコブはやっと結婚できた。しかし初夜を過ごした翌朝、花嫁はラケルではなく、レアであった。ラバンに抗議すると、ラバンは結婚披露宴の7日間をこのまま過ごせば、ラケルも妻として与えるが、さらに7年間働くようにヤコブに求めた。ヤコブはそのようにした。(創 29:21~30)
 - (1) 7年間経過したとき、ラバンは何も動こうとしなかった。ヤコブは、ラバンに約束を果たすよう求めた。「私の妻を下さい。約束の日々が満ちたのですから。彼女のところに入りたいのです。」
 - (2) そこで、ラバンは、その土地の人たちをみな集めて祝宴を催した。祝宴は7日間続く。初日が終わり、夕方になって、ラバンは娘のレアをヤコブのところに入れて行ったので、ヤコブは彼女のところに入った。朝になって、見ると、それはレアであった。
 - (3) それでヤコブはラバンに言った。「あなたは私に何ということをしたのですか。私はラケルのために、あなたに仕えたのではありませんか。なぜ、私をだましたのですか。」ラバンは答えた。「われわれのところでは、上の娘より先に下の娘を嫁がせるようなことはしないのだ。この婚礼の一週間を終えなさい。そうすれば、あの娘もあなたにあげよう。その代わりに、あなたはもう七年間、私に仕えなければならぬ。」
 - (4) そこでヤコブはそのようにした。すなわち、その婚礼の一週間を終えた。それでラバンは、その娘ラケルを彼に妻として与えた。
 - (5) ヤコブはこうして、ラケルのところにも入った。ヤコブはレアよりもラケルを愛していた。それで、もう七年間ラバンに仕えた。この七年間も、後日回顧しているように、苦勞に満ちたものであった。
4. 主はレアに4人の息子を与えた (創 29:31~35)
 - (1) 主はレアが嫌われているのを見て、彼女の胎を開かれた。
 - (2) ルベン【子を見よ】・・・「主は私の悩みをご覧になった。今こそ夫は私を愛するでしょう。」
 - (3) シメオン【聞く】・・・「主は私が嫌われているのを聞いて、この子も私に授けてくださった。」
 - (4) レビ【結ぶ】・・・「今度こそ、夫は私に結びつくでしょう。私が彼に三人の子を産んだのだから。」
 - (5) ユダ【ほめたえる】・・・「今度は、私は主をほめたたます」 夫にではなく、主に向かう姿勢に変わっている

のちのイスラエル十二部族の中で、レビは主に仕える部族、ユダは王権を持つ部族